



2億円超の新薬、国内販売承認へ

厚生労働省の「薬事・食品衛生審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会」はノバルティスファーマが申請していた、脊髄性筋萎縮

症の2歳未満の子に対する遺伝子治療薬「ゾルゲンスマ」の国内での製造・販売を承認した。今後、中央社会保険医療協議会での議論を

経て薬価収載(保険適用)となる見込み。アメリカでは1回2億円以上の超高額の治療薬で、国内での販売額に注目が集まっている。

Kirameki Company きらめき企業

文=山本 聡氏 (東洋大学経営学部教授)

技術力と開発力の結晶 折り紙のような金網

東京都荒川区の石川金網株式会社は1922(大正11)年の創業で、各種金網製品を開発・製造・販売している。戦前は航空機や艦船に用いる金網を製造。戦後はまずドライバー



代表取締役社長の石川幸男氏

などの家電機器や建材に用いる金網を、次いで自動車部品としての金網を製造・販売するようになった。発明家でもあった創業者の精神を受け継ぎ、現在も商品開発に熱心で、社内外でアイデアを得て様々な金網製品を世に送り出してきた。そんな中で、近年、最も力を入れて開発をし、販路開拓を行っているのが折り紙のように折ることができる金網「おりあみ(ORIAMI)」。

3代目を継いだ現代表取締役社長の石川幸男氏はリーマン・ショックによる経営環境の悪化に直面していた十数年前、今後の展開を考える中で「一般消費

者向けの製品を開発したい」、「折り紙の世界で金網を使いたい」と着想。開発には、著名な折り紙作家の意見も取り入れている。「おりあみ」は石川金網を象徴する製品として多くの媒体で紹介されている。石川氏は世界に発信しようと、イタリアの家具見本市であるミラノ・サローネやドイツの消費財見本市であるアンピエンテにも出展。おりあみを核にした国際化を図っている。



折り紙のような金網「おりあみ」で作った花



何気ない一言で人を動かした 稀代の知将・野村克也

文=石川 哲也 (スポーツライター)

先月死去した野村克也の指導で覚醒した選手は数多いが、通算113勝をあげた江本孟紀もその一人。ドラフト外でプロ入りし、未勝利のまま2年目に南海ホークス(当時)へトレードされると、選手兼任監督だった野村との初対面で「オレが球を受けたらオマエ10勝以上するで」と声をかけられた。

この一言に奮起した江本はローテーションに定着。シーズン16勝をあげ躍チームのエースとなった。

「0勝の投手に『2けた勝てる』なんて今考えれば、移籍してきた選手へのお

愛想でしかない(笑)。でも惨めな球歴でくすぶっていたボクは、それを真に受けて勝手に頑張った。野村さんの言葉には、そうやって選手をやる気にさせる不思議な力がありましたね」

何気ない一言で心をつかみ、人を動かす。日本球界におけるデータ野球の先駆者は人心掌握に長けた稀代のリーダーでもあった。



有限会社湯沢屋
 代表取締役

高村 英幸氏

仕事で終日屋内にいてお菓子作りという手作業に従事しているため、休みの日はもっぱらアウトドア。特に登山と夏場のセーリングカヌーが最大の楽しみです。登山では3回登った富士山の雄大さに魅せられ、岩壁が立ちはだかる妙義山(群馬県)に圧倒されました。セーリングカヌーは地元の中禅寺湖が舞台。食料も持ち込み、途中砂浜に上陸したりして1日楽しめます。



日本生命保険相互会社